

## アスクルと boost technologies が共同で 業界に先駆け、サプライチェーン全体の CO2 排出量削減に向けた 取り組みを8月より本格始動

～サプライチェーン CO2 排出量見える化ツール「boost Supplier」を活用し、アスクル PB 商品の算定から開始～

アスクル株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:吉岡晃、以下「アスクル」)と boost technologies 株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役:青井宏憲、以下「boost technologies」)は 8 月より、アスクルが運営する EC 事業におけるサプライチェーン全体の CO2 排出量削減を目的とし、CO2 排出量算定ツールを活用した Scope3(※1)の削減への取り組みを業界に先駆けて本格始動します。

アスクルにおける CO2 排出量は、全体の 99%が Scope3 であり、中でも仕入商品によるものが 75%と大部分を占めているのが現状です。そこで商品の CO2 排出量に注目し、まずはアスクル事業で取り扱う PB 商品の CO2 排出量算定から開始することとしました。商品の CO2 排出量を見る化することにより、アスクルとサプライヤーは各商品の CO2 排出量の削減に向けた具体的な検討につながり、お客様には環境配慮商品を選定する際のサポートになります。

本取り組みでは、効率的かつ正確な CO2 排出量の算定を行うために boost technologies 提供のサプライチェーン CO2 排出量見える化ツール「boost Supplier」を導入し、サプライヤーから収集したデータを活用します。

(※1) Scope1、Scope2 以外のサプライチェーン上の排出

### ■取り組みの背景

昨今、豪雨や猛暑が頻発し深刻化している気候変動問題に対し、企業は CO2 排出量の削減への取り組みが求められています。アスクルでは 2016 年に「2030 年 CO2 ゼロチャレンジ」を宣言し、原材料調達からお客様への商品お届けまでサプライチェーン全体で脱炭素を実現する具体的な取り組みを推進しています。2022 年 10 月には「アスクル商品環境基準」を策定し、商品ごとの環境配慮レベルを独自にスコア化し商品ページへの掲載を開始。翌年 2 月には環境スコアに加え、葉のイラストを使用したビジュアル表示を追加し、商品の環境配慮度合いを確認して商品比較をしやすい売り場へと進化させています。

そしてこのたび、アスクルのサプライチェーン全体の CO2 排出量の削減のため、商品ごとの CO2 排出量の算定を本格的に開始します。アスクルでは CO2 排出量のうち 99%が Scope3 であり、中でも仕入商品によるものが 75%を占めています。そこで、大部分を占める商品の CO2 排出量の削減に焦点を当て、まずはアスクル事業で取り扱う PB 商品について着手します。商品の CO2 排出量を見る化することで、アスクルとサプライヤーは各商品の CO2 排出量の削減に向けた具体的な検討につながり、お客様は環境に配慮した商品を選定する際や類似商品を環境視点で比較する際のサポートになります。

### ●アスクルのサプライチェーン CO2 排出量 (2022 年 5 月期)(t-CO2)

Scope1	2,740	ガソリン、灯油など直接排出
Scope2	9,012	購入した電気
Scope3	1,478,819	サプライチェーン上の排出

### ■見える化ツールを導入し CO2 排出量削減に向けた算定を開始

商品の CO2 排出量の算定にあたり、アスクル側はサプライヤーへの回答依頼や収集・確認作業の煩雑さがあり、サプライヤー側は算定の手間やコストなどの課題がありました。そこで、boost technologies が提供するサプライチェーン CO2 見える化ツール「boost Supplier」の導入に至りました。「boost Supplier」は各サプライヤーにアカウントを付与し、アスクルに納入された商品を構成する材料や加工(製造)の活動量登録と排出原単位選択を行うことで、商品ごとの CO2 が算定できます。サプライチェーンの各工程のデータを細かく収集できることはもちろん、サプライヤーへの回答依頼、回答の入力作業、確認、分析がしやすく、効率的に CO2 排出量を算定することができます。サプライヤーから収集したデータは、boost GX 上でサプライヤー全体の CO2 排出量として確認することができ、CO2 排出量削減に向けた改善につながります。

今後は、2023 年 9 月からパイロットサプライヤー 10 社に向けて「boost Supplier」の導入説明会ツールへの入力を開始。順次他のサプライヤーにも展開していきたいと考えています。

### ■「boost Supplier」について

「boost Supplier」は boost technologies が提供するサプライヤー CO2 排出量可視化ツールです。サステナビリティ経営の加速を支援するためのプラットフォーム「boost Sustainability Cloud」のアプリケーションの 1 つで、Scope3 削減の実現に向けたサプライチェーンマネジメントツールです。多岐にわたるサプライヤー側の CO2 等排出量管理が可能となり、サプライチェーン全体の CO2 削減に向けた取り組みの進捗管理の効率化に貢献します。

# News Release

## <主な4つの特徴>

1. サプライヤー全体へのアカウント・画面の付与～算定～統合
2. サプライヤー側の精緻な1次データ比率の向上(積み上げ)
3. サプライヤーへの入力依頼・確認の効率化
4. サプライヤーの排出量データを一元化



アスクルと boost technologies はサプライチェーン全体での CO2 排出量削減とサステナブルな社会の実現を目指し取り組みを進めてまいります。

## <アスクル株式会社 概要>

所在地: 東京都江東区豊洲 3-2-3 豊洲キュービックガーデン  
代表者: 代表取締役社長 CEO 吉岡 晃  
事業内容: 事業所向け(BtoB)、個人向け(BtoC)の EC 事業  
URL: <https://www.askul.co.jp/corp/>

1993年に事業所向け通販サービス「ASKUL」事業、2012年には個人向け EC 「LOHACO」を開始。全国 10 拠点の自社 EC 物流センターから、全国に当日・翌日配送「明日来る」を実現しています。

商品開発からラストワンマイルまで担うバリューチェーンにおいて、メーカーやパートナーとの共創を推進し、データとテクノロジーを最大活用してサイバー・フィジカル両面からのビジネストラנסフォーメーションを進めています。当社のパーパス「仕事場とくらしと地球の明日(あす)に「うれしい」を届け続ける。」を実現する社会インフラであり続けることを目指しています。

## <boost technologies 株式会社 概要>

所在地: 東京都品川区大崎 1-6-4 新大崎勸業ビルディング 10F  
代表者: 代表取締役 青井 宏憲  
事業内容: boost Sustainability Cloud (boost GX、boost Supplier、boost ESG、boost Energy) の開発運営  
URL: <https://boost-tech.com/>

持続可能な未来を次世代に残すため、Technology の力で NET-ZERO の実現を目指します。

GHG 排出量可視化ソリューション売上シェア、ESG 情報開示ソリューション売上シェア No.1\*1 の、サステナビリティ経営を加速するためのプラットフォーム「boost Sustainability Cloud」を提供しています。構成アプリケーションとして、CO2 排出量の見える化・カーボンオフセット・報告レポート等の GX(グリーン・トランスフォーメーション)を促進する「boost GX(旧 ENERGY X GREEN)」、サプライチェーン全体の CO2 排出量の見える化を実現する「boost Supplier」、ESG の開示項目を見える化し ESG パフォーマンス向上につなげる「boost ESG」、CO2 フリー電力等の調達や供給を可能とする「boost Energy(旧 ENERGY X)」を展開しています。また、サステナビリティ領域のコンサルティングサービスも提供しており、NET-ZERO/ESG リーダーの SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)を一気通貫で支援しています。

## <参考>

- アスクル 環境・社会活動報告  
<https://askul.disclosure.site/ja/>
- アスクル商品環境基準  
<https://askul.disclosure.site/ja/themes/92>

## <関連プレスリリース>

- 2022年10月21日  
「アスクル商品環境基準」を策定し、商品ごとの環境配慮レベルを独自にスコア化し公表開始  
<https://pdf.irpocket.com/C0032/n4cW/TIEM/QDN5.pdf>

※本リリースに掲載の情報は発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますのでご了承ください。